

笑顔のカッパ登場



西川町 議会だより

西川小学校のプール
授業が始まりました。
この日を待ちわびた子ども
たちは、ご覧のとおり
水中でも笑顔でした。

109号

2019.7.16発行

山形県西川町議会



※上記QRコードを
スマートフォンな
どで読み取ると、
議会ホームページ
にアクセスします。

新たな議会で令和の時代に船出を……………	2頁
廃校施設の管理は万全なのか……………	4
7人の議員が町政をただす……………	6
黒字化は評価できるが課題も……………	15
あなたの地域に議員がおじゃまします…	16
辛口の評価も大歓迎……………	17
知りたい！聞きたい！……………	18

令和元年 第1回 臨時会

新たな議会で 令和の時代に船出を

4月に行われた町議会議員選挙後の初議会が5月10日に開かれました。改選後の初議会であり、議長と副議長の選挙が行われ、議長に古澤俊一議員、副議長に佐藤耕二議員が当選しました。

また、議会運営委員会や各常任委員会の委員を選出し、議会の新たな構成が決まりました。

令和の時代の幕開けとともに誕生した「新西川町議会」として、議会本来の権限行使を確かなものとし、町とともに町政運営の両輪を担う決意を新たにしました。

町民の皆様から より信頼される議会に



議長 古澤 俊一

平成から令和へと元号が改まり、新たな時代の幕開けとともに、議長に就任いたしました。身に余る光栄であり、その責務の重さを痛感しております。

人口減少や少子高齢化の厳しい時代の町政運営のために、各議員が様々な視点から自由闊達な議論を尽くすことで、合意形成を図られるものと考えます。今後さらなる安全、安心な暮らしを提供するためにまちづくりを進めていくことが、町民の皆様と議員全員の一致した願いであるとの認識に立ち、より信頼される議会となるよう努力いたします。

町民の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

議長・副議長選挙の結果

議長選挙	
当選	古澤 俊一 4票
	伊藤 哲治 3票
	佐藤 幸吉 2票
	佐藤 光康 1票
※任期は令和元年5月10日から令和5年4月30日まで	

副議長選挙

当選	佐藤 耕二 6票
	佐藤 幸吉 2票
	佐藤 光康 1票
	荒木 俊夫 1票
※任期は令和元年5月10日から令和3年4月30日まで	



副議長 佐藤耕二

常任委員会委員等の選任

常任委員会と議会運営委員会の委員は議長の指名により選任されました。

※その他の委員等も含め、それぞれ次ページのとおり決定しました。

人事案件

議会選出監査委員の選任の同意

大江 廣康（全員賛成）

※任期は令和元年5月10日から令和3年4月30日まで

専決処分の承認

西川町町税条例等の一部を改正する条例の設定

町民税における「ふるさと納税制度」の見直しや住宅ローン控除の拡充、10月からの消費税率引き上げに伴う軽自動車税の環境性能割の臨時的な軽減を行うものなど。（全員賛成）

西川町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定

国民健康保険税の負担の公平化を図るための軽減措置を拡充するもの。（全員賛成）

西川町介護保険条例の一部を改正する条例の制定

消費税率引き上げに伴い、低所得者の保険料の軽減を強化するもの。（全員賛成）

その他

西村山広域行政

事務組合議会議員

古澤 俊一 佐藤 耕二
伊藤 哲治

※令和3年4月30日まで

西川町林業活性化議員連盟

会長 古澤 俊一
副会長 佐藤 耕二
幹事長 佐藤 幸吉
幹事 大泉 奈美
幹事 佐藤 光康
監事 佐藤 仁
監事 大江 廣康

※令和3年4月30日まで

西川町町有林運営委員会

(議会選出委員)

古澤 俊一 佐藤 幸吉
菅野邦比克 荒木 俊夫

※令和5年4月30日まで

西川町道路整備促進協議会

(議会選出委員)

古澤 俊一 佐藤 耕二
佐藤 幸吉 大江 廣康

※令和2年度末まで

令和元年5月10日からの委員会等の新しい構成を紹介します。任期は令和3年4月30日までです。

議会運営委員会

- ①委員長 伊藤 哲治
- ②副委員長 荒木 俊夫
- ③委員 佐藤 幸吉
- ④委員 大泉 奈美



議会を円滑に運営するため、次のような事項を担当します。

- ・議会の運営に関する事項
- ・議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- ・議長の諮問に関する事項

総務厚生 常任委員会

- ①委員長 伊藤 哲治
- ②副委員長 菅野邦比克
- ③委員 古澤 俊一
- ④委員 佐藤 耕二
- ⑤委員 佐藤 仁



総務課、政策推進課、町民税務課、出納室、健康福祉課、町立病院及び教育委員会等に関する事務事業を所管します。

産業建設 常任委員会

- ①委員長 佐藤 幸吉
- ②副委員長 大泉 奈美
- ③委員 大江 廣康
- ④委員 佐藤 光康
- ⑤委員 荒木 俊夫



産業振興課、商工観光課、建設水道課、農業委員会に関する事務事業を所管します。

広報公聴 常任委員会

- ①委員長 大泉 奈美
- ②副委員長 佐藤 光康
- ③委員 大江 廣康
- ④委員 菅野邦比克
- ⑤委員 佐藤 仁



議会の活動を町民の皆さんへ紹介するとともに、ご質問やご意見などをお聞きし、お答えする仕事を担当します。

補正予算関係議案及び審議結果

議案番号	件名と主な内容	議決結果	
議第30号	元年度一般会計補正予算(第1号)	可決 全員賛成	
	48億5157万3000円(2157万3000円追加)		
	総務費		風疹の追加的対策に伴うシステム業務委託 12万6000円
			風疹の追加的対策に伴うシステム改修委託 64万8000円
			幼児教育無償化に伴うシステム改修委託など 715万円
			若者海外体験促進事業補助金 12万5000円
	民生費		介護保険特別会計繰出金 35万6000円
			遊戯室(ぶなのもり広場)引割帳帳修繕工事 61万7000円
	衛生費		未熟児養育医療費等国庫負担金確定による返納 13万5000円
	農林水産業費		発芽胚芽米製造施設精米拡充設備取付修繕 157万7000円
			農業集落排水事業特別会計繰出金 101万9000円
	商工費		町商工会運営等補助金(パンフレット増刷) 5万円
			朝日連峰避難小屋管理等の事務用消耗品 4000円
			朝日連峰避難小屋管理委託 2万8000円
			国立公園登山道刈払対象変更に伴う委託料増額 2000円
			国際観光誘客推進事業負担金 ※KBS(韓国国営放送)による取材への助成 40万円
	土木費		町道本道寺線用地測量業務委託 100万円
			町道本道寺線落石防止工事 400万円
			町道本道寺線公有財産購入費 2万円
			大下団地緑地防護柵補修工事 95万1000円
教育費	スクールバス備品(バッテリー)購入 12万4000円		
	旧水沢小学校2階男子便所並びに1階天井修繕 59万4000円		
	西川交流センターあいべ敷地内マンホール修繕 14万7000円		
	一般コミュニティ助成事業助成金 ※入間区の神輿整備事業への助成 250万円		
議第31号	元年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決 全員賛成	
2836万9000円(101万9000円追加)			
	施設費 マンホール蓋切り下げ工事(町道水沢線) 101万9000円		
議第32号	元年度介護保険特別会計補正予算(第1号)	可決 全員賛成	
	7億3489万1000円(118万3000円追加)		
	総務費 介護報酬改定に伴うシステム改修委託 55万円		
	地域支援事業費 通所型サービス事業費 60万円		
	介護支援専門員資格の更新手数料 3万3000円		

質問あり
4ページの下段を参照

質問あり
5ページの下段を参照

質問あり
4ページの中段を参照

廃校施設管理は万全なのか

令和元年
第2回
定例会



▶旧水沢小学校体育館入口の破損部分(天井が崩落し、配管が見えている)

令和元年第2回定例会は6月3日から6日までの4日の会期で開催されました。町からは人事案件1件、各会計補正予算3件などが提出され、慎重に審議した結果、全議案を可決しました。一般質問は新人議員3人を含む7人の議員が11件について行いました。請願は1件を採択の上、議員発議にて意見書の提出を可決しました。

議会として同意

西川町町有林運営委員会委員の選任
宮林 昌弘さん(月岡)

令和元年6月2日で任期満了となった佐藤征男さんの後任として選任する。(全員賛成)

気になる補正予算

今回の補正予算の詳細は左のページのとおりです。これらの補正予算案に対し、2人の議員がいくつかの質問を行いました。

管理体制は万全なのか

問 旧水沢小学校体育館のトイレの水漏れにより天井が壊れ修繕が必要になったが、他の廃校舎も含めどのように管理しているのか。

答 旧水沢小学校は水沢区大井沢区に、それぞれ監視業務委託契約を結んで管理をお願いしている。業務は週1回の巡視や、使用後の

高すぎるシステム改修経費

問 幼児教育無償化に伴うシステム改修委託として715万円が計上されたが、改修には高すぎるのではないかと。国の施策にも通じるものであり、今後地方の負担にならないよう要請する方法はないか。

答 経費が高すぎることを認識し、県の担当者とも確認しながら対応を進めている。国では統一のシステムの開発を進めているが、町としても各種の要望を行っている。

助成の実績は

問 若者海外体験促進事業補助金は、18歳から28歳までのパスポートを新規に取得する方を対象とした費用助成で、今回一人5000円の25人が計上された。これまでの実績はどれくらいか。

答 今回新たに始まる事業のため助成の実績はないが、昨年度にパスポートを新規取得した町民は59人だった。

国に意見書を

教職員定数等に関する請願を全員賛成で採択し、2020年度政府予算にかかる意見書として提出することを決定しました。

意見書の要旨

1 計画的な教職員定数改善を推進すること。
2 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に還元すること。

一般質問

そこで聞ききたい

7人の議員が町政をただす



▲議場の議員席

質問事項 (発言順)

- 荒木 俊夫 議員…………… P7
 - 1 快適な雪国生活の提供を
 - 2 歴史文化資料館・かわどい亭の活用
- 佐藤 幸吉 議員…………… P8
 - 1 路線バスの充実策で町民の足を守れ
- 佐藤 光康 議員…………… P9
 - 1 町の「お知らせ」にタウン情報を
 - 2 西川の歴史文化の発信力を強めよ
 - 3 交通体系を町民の実情に合ったものに
- 佐藤 耕二 議員…………… P10
 - 1 町立病院の環境整備と近未来は
- 大泉 奈美 議員…………… P11
 - 1 第6次西川町総合計画の進捗状況
 - 2 自然教育学習先進地づくり
- 菅野 邦比克 議員…………… P12
 - 1 住民の安全、安心な暮らしを守る
- 伊藤 哲治 議員…………… P13
 - 1 人口減少をどう食い止めるのか
～子育て環境面から問う～

傍聴席からひとこと

【50代女性】
議員さんたちにはもう少し広い視野を持っていただきたいと感じました。確かに身近な住民の声を届けるのも仕事ですが、小さな町が生き残るためにはどう変わっていくべきなのかとか…。でも、いろんな情報を得られて、勉強にもなりました。

町政全般にわたり、その課題等について町の考え方や疑問をただすのが一般質問です。西川町議会では、1人あたりの持ち時間を町の答弁も含めて1時間以内としています。この限られた時間内に十分な討論を行うため、議員は開会の約15日前までに質問の概要を町に通告します。この通告の順番により発言の順番も決まります。

今回の第2回定例会では7人の議員が登壇しました。議会だよりでは、質問と答弁の内容を要約してお伝えしていきます。

※第2回定例会の傍聴者は延べ12人でした。

町長 重要な課題の1つとして検討する

快適な雪国生活の提供を

町民意識調査の結果、住み良い町、魅力ある町にするために最も望むことが「雪対策」、 「快適な雪国生活の提供」だ。この雪対策について質問をする。

答 融雪遅延対策事業の補助要件の緩和など制度を改正したが、今後は様々な意見を聞きながら対応を検討したい。

住民のための道路除雪

問 住宅等がある生活道路の町道で、除雪していない路線はありますか。道路の幅が困難であれば、除雪車の小型化や除雪機械の住民への貸与、消雪道路や流雪溝の整備など、住民生活に対応した前向きな取り組みを行うべきか。

答 除雪を行っていない町道は3路線で、これらの除雪は、各世帯や地域の住民が行なっている。本来、町道認定した



▲町民の生活を守る除雪作業

路線は町が除雪すべきだが、様々な事情から現在の状況となっている。今後は内部で対応を検討したい。

今後の雪対策

問 町民が最も望む雪対策や快適な雪国生活の提供について、今後どのように取り組んでいくのか。

答 安全で安心な生活ができるよう、特に一人暮らし世帯の方への対策など、より具体的で包括的な雪対策を重要な課題の一つとして、関係者と検討、対応を進めていく。

町長 交流拠点の1つとして積極的に活用する

歴史文化資料館・かわどい亭の活用

令和に改元された記念すべき5月1日に開館した「歴史文化資料館」と「かわどい亭」が多くの方々に活用されるために次の質問をする。

施設の目的・運営

問 施設の設置目的や運営方針のほか、今後の活用のための計画や町の支援対策はどのようなか。

答 歴史文化資料館は文化財等保護行政の考え方を踏まえ、本町の遺産の散逸や滅失を防ぎながら、資料の収集や分類、研究、保存、展示などの一元管理を行うとともに、町民の参画、学習支援なども踏まえた情報発信



▶歴史文化資料館・かわどい亭としてオープンした旧川土唐小学校

の拠点とする。運営主体は町で、教育委員会生涯学習課主管の教育施設として位置づけている。かわどい亭は、もとは吉川地域の地域づくり計画に「食堂や加工所への改修」という内容があり、その支援の要望をいただいていた。町の農林産物を活用

外壁・外構の補修整備

問 安全・安心で利用者にもやさしい施設にするための、外装(外壁)・外構(池、車いす用スロープ等)の補修整備はいつ行うのか。

答 今後の利用状況等を踏まえた上で、その整備の必要性も含めて検討していきたいと考えている。



荒木 俊夫 議員

路線バスの充実で町民の足を守れ

町長 利用の状況等を確認し検討したい



佐藤 幸吉 議員

聞くが、整理をし、11時頃を充実する方法はないか。

高齢に伴う運転免許証の返納が増えている。2万円分のタクシー券やバス回数券の交付に一時的な効果はあるが、根本的な解決策として、路線バスの充実を図り町民の足を確保する対策が必要であると考え、次の質問をする。

山交バスが走っていた頃よりも平日の上りの早い時間帯と下りの遅い時間帯で運行を増やし、山形方面に通学する高校生の利便性を考えた。11時台の運行については、利用者数の想定の聴き取りなどを行う必要がある。

谷地行き乗換なしで

午前の便の整理を

道の駅にしかわ発 寒河江駅行き7時25分発のバスは、宮内から白岩まで小学生が利用するため非常に混んでいる。増便または谷地行きと寒河江行き2台を走らせ、県立河北病院行きの高松駅乗換えをなくす方法はないか。



▲寒河江駅前出発を待つ路線バス

谷地から帰るバスは

県立河北病院から西川町に帰るには、山交バスを利用し、寒河江駅で町路線バスに乗り換える方法しかない。しかも寒河江駅か

5月山銘水館行きの路線バスは、河北病院発11時台のバスが寒河江駅に到着する時刻より前に発車してしまう。また、その次のバスでは、寒河江駅での乗り継ぎに2時間以上待つことになる。バスの増便や発車時刻の変更などの対応が必要ではないか。

11時台の寒河江駅発の便は、山形方面からの乗り継ぎのためのもので、この便についても検討していきたい。

停車箇所の見直しを

月山志津温泉線の西川中発16時30分及び西川IC発16時35分は、この便だけ海味や西川町役場前で停車しないのはなぜか。他の便と同じにはできないのか。

その二つの停留所で停車することに

支障はないと考えられるので、路線バス体系連絡調整会議で必要性等を協議していきたい。

停留所の整備を

観光立町をうたう町として停留所の整備が大切だ。

高速バスストップを月山銘水館にアクセス可能な場所へ移転することはできないか。

高速バスストップの「道の駅にしかわ」裏への移転を、平成28年から東日本高速道路(株)や国土交通省、県の関係部署などと協議、調整してきた。その結果「道の駅にしかわ」裏への移転には地形的な要因などから相当の費用がかかる想定された。

このため、これまでの協議を踏まえ、山形自動車道の未整備区間の早期整備と併せ、今後、国や関係機関に要望していきたい。



▲灯りのない西川IC停留所

西川ICの路線バス待合所に電灯がなく危険だ。対策を考えるべきではないか。

現状を確認し、安全な利用のために必要な対策を検討する。

志津会館の建設計画に合わせ停留所の設置を急ぐ必要があるのではないか。

令和2年度に既存施設を解体し、バス停留所など多機能を有する新たな施設の建設を予定している。志津地区に建設案を提示し、検討をお願いしている。

町の「お知らせ」にタウン情報を

町長 できる限り掲載する

第6次西川町総合計画では、町民の役割として「みんなが主役運動」を掲げている。町民がどのようにすればまちづくりに積極的に参加できるかという観点から次の質問をする。

お知らせによる支援

各地区や趣味のサークルなどの催しを町の「お知らせ」に掲載してほしいという要望があれば、町は積極的に掲載し、支援すべきだ。

現在、原則として、町及び関係団体などからの情報提供として、町の「お知らせ」や「年間行事予定表」に掲載し、全戸及び関係機関などに配布している。

営利目的以外などの一般的な条件はあるが、「タウン情報」の掲載も、関係課等にご相談いただければ可能な限り掲載する。その条件や手続きなどの明確化と周知については検討していきたい。

西川の歴史文化の発信力を高めよ

町長 魅力ある展示に努める



▶歴史文化資料館一階から見た月山

歴史文化資料館が完成したが、他の市町村の例を見ると、観光と結びつけて発信力を強化している。それを踏まえ次の質問をする。

発信力を強化すべき

大江町や寒河江市では歴史文化係を置き、嘱託を含めた三人の職員体制としている。しかし、西川町は

▲国指定重要文化財の岩根沢三山神社



専門の部署もなく、嘱託一人のみ。町は「出羽三山の歴史に基づく文化振興」を掲げているのだから専門の職員をもっと増やして発信力を強化すべきではないか。

条例に基づく文化財調査委員会から、歴史文化資料館の基本理念や目的の設定、展示計画、展示内容等に対して意見をいただきながら、施設の整備や資料展示を行なっている。今後も魅力ある展示に努める。

交通体系を町民の実情に合ったものに

町長 ニーズに応じたサービスを検討する

高齢者から「バスの本数が少ない」とか「歯医者に行くにはタクシー使うしかない」などという悲痛な声が上がっている。それを踏まえ次の質問をする。

交通体系の見直し

全国的には、いろいろな取組みが始まっている。デマンドバスやデマンドタクシーを増やすなどして町の交通体系を町民の実情にあったものに見直すべきではないか。

高年齢者の交通手段を確保するためのサービスとして、「お出かけ支援サービス(要介護2以上が対象)」や「福祉タクシー助成事業(身体障がい者の方で町民税非課

税の場合に該当)」などのほか、買物も頼める「シルバーファミリーサポーター派遣事業(65歳以上の見守りや援助の必要な方が対象)」がある。

要介護や障がい者の方へのサービスは確かにある。しかし、今、問題になっているのは運転免許返納者の交通手段の確保ではないのか。

自家用有償旅客運送に関する法改正も行われている。今後、高齢者の方々やサービスに係る関係団体からの意見を聞いて、他市町村での取組み事例なども研究しながら、ニーズに応じたサービスを検討していく。



佐藤 光康 議員

町長 町立病院の環境整備と近未来

町長 病院機能の安定が最も重要



佐藤 耕二 議員

町内各地をまわり、前回質問した町立病院環境整備について町民の意見を聞いてきた。高齢化率が県内で最も高い本町において医療は非常に重要であり、再度質問する。

答 待合室の長椅子は、傷みも少なくこれから使用できる状態と判断している。下足入れも使用には支障がないものと判断している。

問 病院の経営状況を踏まえ、もうしばらくお待ち願いたい。

バスの待ち時間

問 町路線バスで来院する方は、病院に着いてから出発する時間まで、どこの地区も4時間30分の待ち時間がある。特に診療後の

時間が長い。運行時刻の変更をすべきでは。

答 通院に関するバス時刻の編成にあたっては、町民の福祉の増進に寄与するため調整を図ってきたが、近年は以前と比べてそれほど混雑もなく、昼を越えての診察もなくなっている。

近未来

問 医師の確保や患者数の減少等、西村山郡の病院はすべていろいろ問題を抱えている。首長である町長は他市町と連携をとって、広域連携を図りながら近未来の病院を構築しなければならぬが、その将来像をお聞かせください。

答 公立病院を取り巻く状況は年々厳しさを増しているが、医療機関が町立病院のみの本町にとって今後とも病院を継続させていくことが命題と捉えている。町民の一次医療を担う救急告示病院として



竣工から42年経った町立病院

待合室の環境整備

問 購入後25年以上たつ、座りにくく硬い椅子の更新と、入れにくく見栄えの悪い下足箱の改修は、前回早急に検討すると答弁したが、どのように検討したのか。

答 「町立病院の新改装プラン」の計画期間は平成28年から5年間だが、このプランでも待合室の環境整備をうたっている。残り2年間しかないがどのように進めるのか。



見栄えの悪い下足箱

24時間の医療体制を継続していくためには、現在の医療体制が必要不可欠だ。広域的な課題については、山形県地域医療構想の中で検討されており、各病院が持てる医療機能を明確にした上で、さらに機能を分担し連携することが求められている。従って、広域連携に対応できるといった点からも、町立病院の人的配置、医療機器等の充実を図った上で、病院機能を安定させ確保するものにしていくことが最も重要と認識している。

第6次西川町総合計画の進捗状況

町長 それぞれの対応を検討し実施している

町は定住人口の維持確保を最重要課題としているが、昨年度の町民意識調査の結果や意見、要望を今後の施策にどう反映させるのか、次の質問をする。

問口除雪の支援は

問 一人暮らし、二人暮らしの高齢者に対して、さらなる問口除雪支援が必要では。

答 毎年11月に区長や町内会長などと福祉座談会を行なっている。

る。そこで特に配慮の必要な住宅などの情報を得て、建設水道課や除雪オペレーターと情報を共有している。もう少し早い時期に開催してほしいという要望があり、その対応を検討している。

移動販売の充実

問 買い物支援として移動販売の充実が必要では。



大井沢での移動販売の様子

答 今ある移動販売がうまくかみ合っていると思う。民生児童委員などを通じて意見をいただければ対応を考えるが、今のところは聞いていない。

免許返納者への支援は

問 免許返納者への情報提供と支援は十分か。

答 免許を自ら返納する方は、まだ十分な歩行ができると思う。その段階では路線バスを使い、歩行が困難になったらタクシーを使い、介護が必要になったら、介護保険の移送サービスを使うという段階的なサービスを提案できるようなしている。

移住定住の対策

問 移住定住サポートセンターの機能強化の取組みは。

答 西川町での暮らしが具体的にイメージできる情報の発信と移住者に寄り添った相談支援を基本に進めている。

問 多世代共生型のまち「CCRRC構想(※)」の構築などを考えてみては。

答 CCRRC構想を含め国の様々な政策があり、町でもいろいろと試験的なことを含め取り組んでいる。ただ、なかなか功を奏さないのは、やはり「相手がある」からであり、まずは町の魅力をいかすに発信するかが重要と考えている。

※CCRRC構想とは
東京圏などに住む高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康で活発な生活を送り、医療介護が必要な時には、継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指すもの。

自然教育学習先進地づくり

町長 今年度1年間かけて検討、構築する

大井沢地域における自然教育に関わる今後の取組みについて質問をする。

どのような運営を

問 自然と匠の伝承館の館長と学芸員が不在だが今後の運営は、

答 自然と匠の伝承館の館長に生涯学習課長を任命し、施設管理や事業全体の管理運営を担当させている。日常的な施設の維持管理や各種事業の企画実施は、大井沢支所長を中心に臨時職員で対応している。

自然教育学習センター担当の地域おこし協力隊員からも事業に関わっていただき、魅力ある施設運営につながる体制づくりを今年度



和紙漉き工房での体験

答 地域おこし協力隊員は個別に、地域の関係者とも連携を図りながら、丁寧な相談を行い、必要かつ適切な支援に努めることとされている。

住民の安全、安心な暮らしを守る

町長 課題を捉え対応を検討する



菅野 邦比克 議員

答 町内事業者の安定経営と事業継続のため、平成29年に「小規模事業者持続化補助制度」を創設し、4事業者を支援した。

第6次西川町総合計画の前期5年が経過し、それを踏まえて今後どう対応していくのか。

問 企業誘致や起業、若者の定住策、地域のコミュニティ、雪対策など住民が安全、安心に暮らしていくための対応を質問をする。

働く場の確保と定住策

問 「超少子高齢化山村自治体」にならないよう、これまでどのような対応をしてきたのか。

27年4月からは「西川町起業支援事業補助金制度」により起業を推進し、昨年度は5社が新たにこの制度を活用し、起業している。

また、企業誘致や起業など、新たな働く場の確保のため、町内で新たに操業する事業所の投下固定資産額により、固定資産税の3年間減免等を行う制度を27年3月に設定し、同年に1社が町内で操業を開始した。

問 若者が定住するためには安定して働く場の確保が絶対に必要不可欠だ。現在、町内に進出を希望している企業はあるのか。また、企業の撤退や廃業に関する5年間の件数と解雇された人数などは。

答 今のところ町外からの進出希望はない。様々な企業からよく聞かされるのは、雪処理に数百万円の経費がかかるという点と、学歴に見合った収入が得られないという理由などで、働き手を募集しても集まらないという実情だ。



▲使われなくなった作業場

また、昨年度は企業の撤退等が1社あり、今年度は大江町の工場に統合される場所が1社ある。従業員は全て新工場に移ると聞いている。

地域コミュニティ維持

問 地域のコミュニティ機能が維持できなくなるとは、具体的にどういうことを指しているのか。また、どういうくくりで「地域」を捉えているのか。人口減少で機能の維持が難しくなる地域には、今後どう対応していくのか。

答 ここという「地域」は区単位を指す。各地域で、将来像の合意形成を図り、課題解決のための持続可能な仕組みと機能を確立することで、安心して夢を持って暮らすことができる。

こうした生活サービスの維持確保などのため、地域支援のあり方などの見直しも行いながら、地域とともに取り組む必要がある。コミュニティ機能の維持ができない集落では、それぞれの地域づくり計画に基づき、課題を抱えながらも、対応しているものと考えている。

雪対策

問 今後、流雪溝の整備をどう進めていくのか。また、降雪が続いた場合の緊急の雪下ろしの人手をどう確保していくのか。

答 使用が比較的容易な流雪溝は、今後も、水の状況や地域の実態、さらには投資効果などを考慮しながら、整備を望める地域と協議して整備していく。

また、緊急の雪下ろしは、それができる業者や人手も限られており、どこから優先的に対応するかを担当の健康福祉課で検討する。雪下ろしの不要な屋根への改修に町が助成する制度もあるが、高齢者の1人暮らし世帯などでは経済的に難しいため、その対応をどうするか課題として検討していきたい。

しかし、現状のまま人口減少が推移すると仮定した場合、今後、新たな対応が必要となる集落が想定される。町としても集落での協議に基づく意向を尊重し、必要な対応や支援など丁寧に対応を進める。



▲間沢地内の流雪溝

人口減少をどう食い止めるのか

町長 今後も子育て支援策の充実を図る

第6次西川町総合計画を踏まえ、人口減少をどうやったら食い止めることができるのか、主に子育て環境面から質問する。

少子化に歯止めを

問 6次総後期基本計画の中で、定住人口の確保を町の最重要目標に掲げ、令和5年に最低限確保したい人口を5000人とうたっているが、少子化に歯止めがかからない現

状をどのように認識し、どのような施策を実施していくのか。

答 これまでの取り組みの結果、今年2月1日時点の推計で、平成27年10月1日時点より7・7パーセントの人口減少となっている。このまま推移した場合、令和5年度には5000人を下回る可能性もある厳しい状況だ。

そのため、現在の単純推計で年間12世帯程度、31人程度の人口減少抑制を目標に取り組みが必要がある。

具体的には、移住対策はもちろん後期基本計画を着実に進め、転出の抑制を図ることだ。そのためには、町民の方々が町や地域に誇り

保育料の無料化を

問 現在、町では第3子から保育料が無料だが、「子育てするなら西川町で」をさらに押し進めるために、全ての子どもたちの保育料を無料化する施策を実施する考えはないか。

答 現在の幼児教育・保育の無償化に伴う町の取組みとして、制度に関する情報収集を急ぎ、対応を検討し



▲ジョー先生と英語で遊ぶ

と愛着を持ち、「住み続けたい」と思えるまちづくりに取り組んでいくことが重要だ。

一体型に改める考えは

問 現在の分離型小中に改変する考えはないか。併せて小中学校学力テストを県下でトップクラスにするなど、子どもたちの学力向上施策をどう考えているか。

答 施設分離型と施設一体型それぞれに長所と短所がある。現時点では分離型で小中一貫教育を進めるのがベストと考えている。全国学力テストで西川中学校はここ数年継続して良好だ。これは

通学の足の確保を

問 町のスクールバスや路線バスのターミナル、拠点となる場所をきちんと作っていくべきではないか。

答 歴史的に、以前から拠点は間沢だという理解で良いのではないかと思うが、今後、地域公共交通網整備におけるダイヤ等の検討と合わせて考えていく。



▲この笑顔を守りたい

て環境を喫緊の課題として、一つ一つ着実に実行に移していくことが、人口減少に歯止めをかけることに繋がるものと考えているが、どのように実行していくのか。

答 子育て環境は、これまで町の財政上、許せる範囲で整備してきたと考えている。ただ、単に給付型の環境整備だけでなく保護者の子育てに関する不安をなくせるようなメンタル面でのフォローがより重要であり、今後も子育て支援センターの充実などを進めていきたい。

常任委員会報告

秋の政策提言に結びつけます

6月5日に開催した各常任委員会では、今年度の所管事務事業の調査項目について協議しました。今後、「行政評価（事務事業評価）」や「行政視察研修」、「町民と議会の対話の集い」などの議会活動と連携させながら、従来よりも1カ月早い11月中に、町に対する政策提言を提出する予定です。

人口減少対策

第6次西川町総合計画・後期基本計画では、定住人口維持確保を最重要目標にかけ、令和5年度までに維持したい定住人口を50000人、世帯数を16000という目標値を設定しています。定住人口確保のための雇用の拡大や住環境、子育て支援、移住対策等について調査検討します。

子育て支援対策

出生時から幼児期、小学生、中学生、高校生、大学生に至るまでの成育過程に合わせた子育て支援、子育て環境など「子育てするなら西川町」と誇れるような子育てに関する行政サービスのあり方を調査検討します。

保健医療福祉対策

第8次保健医療福祉計画に基づき、町民の健康保持と健康寿命を延伸し、現役80代宣言を目標にした行政サービスのあり方を調査検討します。

総務厚生常任委員会



▲ 昨年度の大井沢地区健康まつり

▼ 今年も始まった仁田山放牧場での放牧



観光振興

町自体の活力を維持するために、町外の人々との交流を拡大し、それらを移住や定住に結びつけようという考え方に立ち、今年3月に「西川町観光ビジョン」が策定されました。このビジョンに基づきどのような取組みが実施されるのか調査します。

畜産振興

本町の畜産業の大きな事業として、民間事業者を含む畜産クラスター協議会による取組みが実施されます。これにより衰退の一途をたどる本町の畜産業がどのように変わっていくのかを見定め、町の畜産振興の目指す方向性を追求します。

移動販売

車の運転ができず、近所に買物のできる店がない、いわゆる「買物難民」の問題があります。このことから、個人商店の現状をふまえた移動販売のあり方などについて調査します。

産業建設常任委員会

黒字化は評価できるが課題も

第2回定例会で説明を受けた第3セクター2社の経営状況報告の内容を紹介します。

第28期 西川町総合開発株式会社

報告の概要

ふるさと納税の返礼率の変更に影響を受けたクーポン事業、入浴者数の減少、水道光熱費等の上昇の影響を受けた温泉館事業は、売上高、利益とも昨年度より減少しました。しかし、新商品開発や新ラベル企画を行なってきたビール事業をはじめ、経営改善として、指定管理事業等の各事業の経営効率化を図るとともに、業務内容に見合ったコスト管理などに努めてきました。この結果、当期売上高4億9790万円ながら、取引条件

等の見直しによる粗利益の改善のほか、委託料等流出コストの削減、人員の効率的運用に努め、水道光熱費、燃料費等の上昇をカバーし、2期連続黒字となりました。

議会からひとこと

利益剰余金がマイナス4811万円まで回復したものの、資本金1億円が5189万円まで減っている厳しい状態が続いている。今後も新商品の開発や販路の拡大、さらに全社員が経営に参画し、がんばっていただきたい。

経営成績の概況

売上高	4億9790万円
(前期比)	- 1969万円
営業利益	-212万円
(前期比)	- 319万円
経常利益	667万円
(前期比)	+ 228万円
当期純利益	648万円
(前期比)	+ 251万円

財政状態の概況

資本金	1億円
(町持株57.5%)	
総資産	9595万円
(前期比)	+ 1471万円
負債	4406万円
(前期比)	+ 822万円
純資産合計	5189万円
(前期比)	+ 649万円
利益剰余金	-4811万円

第13期 株式会社米月山

報告の概要

当期の取扱実績については、精米数量で489.4t(前期対比134%)、金額で9063万2千円(前期対比111.5%)と、取扱数量、金額とも大幅に拡大する実績でした。特に委託精米加工については、河北町のふるさと納税返礼品として、はえぬき精米5キログラム袋で5万2400袋(前期対比1万5330袋)増加、新規取扱として、つや姫精米5キログラムで6千袋の実績がありました。委託搗精料として876万円(前期556万円)と前期対比157.6%の

実績となりました。白い発芽胚芽米「月山まんな」及びつや姫発芽米の販売実績は、数量で3.03トン(前期対比26.8%減)、金額217万6千円で31.5%減となりました。

これらの結果、昨年度の経常利益は896万円の黒字決算となりました。

議会からひとこと

経常利益は大きく黒字になった。しかし販売数量の減少や累積赤字がまだ大きく、今後の営業戦略が鍵を握ると思われる。

経営成績の概況

売上高	9063万円
(前期比)	+ 935万円
営業利益	289万円
(前期比)	+ 528万円
経常利益	896万円
(前期比)	+ 539万円
当期純利益	790万円
(前期比)	+ 452万円

財政状態の概況

資本金	2000万円
(町持株50%)	
総資産	2524万円
(前期比)	+ 1091万円
負債	1549万円
(前期比)	+ 300万円
純資産合計	975万円
(前期比)	+ 791万円
利益剰余金	-1025万円

※搗精(とうせい)：玄米の糠層を削り取る行程。精米、精白と同じ意味。

町民と 議会の 対話の集い

あなたの地域に 議員がおじゃまします

今回で9回目となる「町民と議会の対話の集い」を企画しました。議会では、この取組みを町民のみなさんの「生の意見」をお聞きする大切な「議会活動」と位置づけ、ここでいただいた意見は、秋に提出予定の政策提言書にもおおいに反映させることとしています。

今回から地域ごとの集いを2年間で13回開催することとし、そのうち今年度は6回の開催を予定しています。また、町内の3団体の方々との集いも実施します。

ふるさと西川町について、今あなたが考えていることを是非お聞かせください。多数のご参加をおまちしています。



▲ 昨年度の様子（小山地区）

◆開催日程と会場の一覧

期 日	開始時刻	上段：地区・町内会等（下段：会場）	担 当
7月22日 （月）	午後7時	大井沢区 （大井沢交流促進センター）	古澤俊一、佐藤幸吉、菅野邦比克 佐藤光康、荒木俊夫
7月23日 （火）	午後7時30分	本道寺町内会、月岡町内会 （本道寺地区集会センター）	佐藤耕二、伊藤哲治、大泉奈美 大江廣康、佐藤 仁
7月24日 （水）	午後7時	原区、沼山区 （沼山地区集会センター）	古澤俊一、佐藤幸吉、菅野邦比克 佐藤光康、荒木俊夫
	午後7時	水沢区 （高齢者コミュニティセンター）	佐藤耕二、伊藤哲治、大泉奈美 大江廣康、佐藤 仁
7月25日 （木）	午後7時	海味区 （海味公民館）	古澤俊一、佐藤幸吉、菅野邦比克 佐藤光康、荒木俊夫
	午後7時30分	睦合区 （睦合公民館）	佐藤耕二、伊藤哲治、大泉奈美 大江廣康、佐藤 仁

※担当議員が変更になる場合があります。
 ※対象となっていない地域の方もご希望があれば最寄りの会場にお越しください。
 ※令和2年度は、①間沢区、②岩根沢区（沼の平町内会を含む）、③吉川区、④入間区、⑤小山地区、⑥志津町内会・弓張平町内会の6つの地域を対象に実施します。

辛口の評価も大歓迎 「議会だより」 読者モニター募集

よりわかりやすく、読みやすい「議会だより」を町民のみなさんへお届けするために読者モニター（10人）を募集します。年齢性別は問いません。ご協力をお願いします。

▼活動内容
 年4回発行の「議会だより」の感想をアンケート形式でお聞きします。

▼活動期間
 110号（元年10月発行）から113号（2年7月発行）までの1年間です。

▼応募締切日
 8月19日（月）午後5時

▼応募先
 西川町議会事務局
 ・電話 74-5055
 ・ファクシミリ番号とメールアドレスは、最後のページをご覧ください。

▼その他
 お寄せいただいたアンケートの一部を、議会からの回答とともに議会だよりで紹介しています。



▲ たくさんのご意見をいただいています。

議会の動き

議会全員協議会

- 5月7日 初議会の議事日程ほか
- 6月3日 第3セクターの経営状況の説明ほか

議会運営委員会

- 5月20日 第2回定例会の運営

総務厚生常任委員会

- 5月10日 委員長、副委員長の互選
- 6月5日 閉会中の継続調査内容検討
- 6月27日 所管事務調査「路線バス事業」

産業建設常任委員会

- 5月10日 委員長、副委員長の互選
- 6月5日 閉会中の継続調査内容検討

広報公聴常任委員会

- 5月10日 委員長、副委員長の互選ほか
- 6月5日 編集会議
- 6月14日 入稿前編集会議
- 6月24日 第1回校正
- 7月2日 第2回校正
- 7月4日 第3回校正
- 7月9日 第4回校正、校了



▲ 「議会だより」をもっと読みやすくするには…

一人でも多くの方から読んでいただくためには、5月31日、山形国際交流プラザで山形県町村議会広報研修会が開かれ、新たに広報公聴常任委員となった議員5人全員が参加しました。

議会広報サポーターの芳野政明氏が講師を務め、午前中は効果ある「議会だより」編集の講義、午後は各町村で作成された議会広報のクリニクが行われました。

どのようにしたら町民の方に読んでもらえるか、実際の「議会だより」に基づくいろいろなアドバイスは大変参考になりました。

まちの行く先を決める場

議会の傍聴におこしく下さい

面倒な手続きは何もありません。
 ぜひお気軽に！
次回定例会は9月です
 （9月2日からの予定）

議場で行う本会議や特別委員会はインターネットで中継しているほか、過去の映像を視聴することもできます。ぜひご覧ください。

知りたい!!聞きたい!!

～議会だより108号のアンケートより～ 読者モニターの広場

西川町議会だより読者モニターの皆さまからたくさんのご意見などが寄せられました。その中のいくつかを議会からの回答とともに紹介します。



M.Tさん

【予算特別委員会の記事を読んで】

町のホームページは、トップページが変わってパッと見ためは新しいのですが、中に入っていくと更新されていない情報が多いです。観光協会のホームページも、知りたい所にとどりつくまで迷子になってしまいそうで不便です。病院に医師や技師がいるように、そういう部分にも専門職がいたらいいと思う時があります。

ホームページが更新されていない問題については、6月の定例会の中でも議員の一人が指摘しました。情報の更新は担当課の責任で行うことになっていますが、非常に不十分な状況です。町では様々な場面で「情報発信力を強める」と言いつつ、こういう重要な部分に手落ちがあり、ホームページを見るたびに町政のちぐはぐな取組みを強く感じます。



M.Fさん

【予算特別委員会の記事を読んで】

以前、夫が遭難事故の捜索に出勤したことがありました。急に頼まれて、明日の朝早くに行かなければならないのに、着る物や履く物などの準備で夜に買い物へ出かけました。なぜかという、きちんと準備をしなければ二次災害になってしまうからです。だから、「行ってける」だけではなくそういう装備品などを支給してくれたら良いと思います。

捜索隊のみなさんの大変な状況は議会としても強く認識しています。捜索隊そのもののあり方も含め、今後も町に対して意見を述べていきたいと思っています。



H.Tさん

【一般質問の記事を読んで】

人口減少の問題に関して、町内の有識者や町関係者の町外転出なども見られる。町民全体の意識が低いのではないかと思います。

社会の最少の単位は「家族」です。その家族として西川町での暮らしをどう考えているのか、今後の暮らしをどう組み立てていくのかなど、町民全員が当事者としての意識をもって話をさせていただくことも必要と考えます。



ご感想をお寄せください

西川町議会では10人の町民の皆さまに議会だよりの読者モニターをお願いしています。アンケートにより寄せられたご質問やご意見には、きちんとお答えするよう心がけています。読者モニター以外の方でも、議会や議会だよりについて「知りたい!聞きたい!」という場合は、お気軽にお問い合わせください。

ファクシミリ 74-2601
メール giji@town.nishikawa.yamagata.jp

委員	委員	委員	副委員長	委員長	議長
佐藤 仁	菅野 邦比克	大江 廣康	佐藤 光康	大泉 奈美	古澤 俊一

いよいよ夏本番となりました。小学校、中学校に冷房設備が設置され、子どもたちの快適な教育環境が整い安堵しています。

世の中の情勢が目まぐるしく変化する昨今、少しでも歩みを止めて、新しくつくられた歴史文化資料館に行ってみました。町の歴史を学びながら静かに月山を眺め、かわどい亭では美味しい食事をいただいで心が癒されました。

広報公聴常任委員会も新メンバーになり、町民参加型の議会広報紙を目指していますので、よろしくお願います。熱中症対策をして元気に夏を過ごしましょう。

(大泉 奈美)

編集後記